

# 倍高当のとは殺したの不平君を

## 日刊 動労千葉

84, 3, 31 No. 号外

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二五三五（六）公衆（〇四七二）七二〇七

### 怒りの抗議行動に決起せよ

三月三〇日、外房線、茂原―八積間の細代踏切において、二四六M列車が警報無視で突っ込んできたコンクリートミキサー車と衝突し、平野雅夫運転士（勝浦支部・35才）が殉職、車掌および乗客多数が重軽傷を負う重大事故が発生した。われわれは、平野雅夫君と御家族に心から哀悼の意を表するとともに、怒りの抗議闘争にたちあがることを表明する。

#### 運輸保安要求を無視しつづけた当局

細代踏切は一九七八年十二月一日に発生した、貨物列車と乗用車の衝突事故をはじめとして実に今回で六度目の事故であり、そして、これらの事故原因のすべてが警報無視であった事実を見ても、まっ先に遮断機付の一種踏切にしなればならなかったはずだ。

動労千葉は、この箇所を早くから「危険踏切」と指摘して改善を要求してきており、とりわけ一月十一日に発出した「申第四号」においても、「通行量が多く事故多発のため、早急に一種踏切に格上げし改善せよ」との強い申し入れを行い、交渉で追及してきていた。

ところが当局は、「施行数に限度がある」として、具体的実施箇所を明示もせず、ただ「外房線五九年度中に七箇所の一様化」とだけのきわめて不誠実な「回答」で片づけようとしてきたのである。動労「本部」革マルの「動乗勤」裏切妥結を粉碎し、運輸保安を実力でかちとるぞ

当局は、臨調―行革攻撃とマスコミの「ヤミ・カラ・タルミ」キャンペーンののっかり、国鉄労



#### 指令を發出

一、関係支部は、3月30日事故復旧・開通時から4月1日24時まで、外房線、茂原・八積間細代踏切（三七K八五二）を通過する全列車を対象に、最徐行運転及び気笛吹鳴行動を実施すること。  
二、各支部は、上記事故について全組合員に明らかにするとともに、抗議の現場長交渉を実施し、危険踏切の解消を申し入れること。  
（動労千葉指令第十四号・一九八四年三月三十日）

働者はタルンデイルから、やれ「職場規律だ」、「合理化だ」、「賃金抑制だ」とすべての犠牲を労働者におしつけておきながら、われわれが自らの生命と乗客の生命を守るために要求した保安対策に対して極めて不誠実な態度をとりつづけた。その結果がこれだ！ 当局が、この無謀な合理化が、ついにわれわれのかけがえのない仲間の生命を奪った。平野君は、乗客の生命を守るために最後の最後までブレーキハンドルを非常位置に握りしめたまま、スクラップ同然に破壊された運転席で無惨におしつぶされ即死しながらに虐殺された。平野君をこのような無惨な死に追いやったのは誰だ！ 当局よ、目をそらすことなくこの姿を直視せよ！ 「運転士は線路問題（保安問題）にまで口を出すな」と暴言をはいたのは誰だ。一切の責任は、運輸保安を無視した合理化のみ優先する国鉄当局にこそある。

そして今まさに、運輸保安無視の無謀な労働強化を強制する「動乗勤改悪」を強行せんとしている国鉄当局とその率先協力者「裏切者・動労「本部」革マルが進めている道こそ、このような、いな、これ以上の重大事故を必ずや続発させる道であることは明らかである。

平野君の無念さをおもうとき、われわれは煮えたぎる怒りをおさえることはできない！ 当局は平野君を返せ！ われわれは怒りも新たに、動乗勤改悪阻止・運輸保安確立へむけ、断固たる闘いに決起することを宣言する。

- 通夜 三月三十一日 十九時より
- 告別式 四月 二日 十三時より
- 自宅・勝浦市墨名五六五の七八
- なお、告別式終了後、「平野雅夫君追悼集会」を勝浦運転区において開催します。

攻撃を粉碎せよ！ 組織破壊で団結の強固な家族・組合員全